

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174701037		
法人名	医療法人 前田クリニック		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	上川郡清水町南1条3丁目20-2		
自己評価作成日	令和2年2月22日	評価結果市町村受理日	令和2年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、医療法人が設立したホームの特徴として、医療連携が充実しており、健康面ではかかりつけ医や看護師と相談し合え柔軟な対応をする事ができ、本人、ご家族からは安心できるとの声が聞かれています。入居者様が常に主体とした生活が過ごせるように環境作りや、支援に心がけ地域の方々協力を頂きながら、地域に関われ愛されるホーム作りに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=0174701037-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年6月24日(令和元年度分)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立者の医院長が退院した後に患者が行き場がない状況を懸念し、老後人間らしく安心して暮らせるようにとの思いから平成18年に設立した事業所で、「グループホームの生活の中心に入居者がいる」開設当初の理念を掲げ、掃除や食事の準備、味付け、配膳、片付け等生活の全ての部分を利用者ができることを行えるように職員は注意深く配慮し支援に努めています。夕食は利用者に聞いて決めることを前提とし、利用者がこの日この時をどう過ごすかを利用者自信の意思決定に基づくことを大切にしている事業所でもあります。利用者の希望の聞き取りを行い個別に外食や買い物などを実現し、利用者の日々の生活にメリハリをつけ生きがいに繋げることに努めています。管理者、職員が常に笑顔で明るく心に余裕を持って接し、楽しく生活できる様に配慮した笑い声の絶えないグループホームとなっています。心身ともに安定し最後まで自分らしい生活を送ってもらえるよう取り組んでいます。当事業所は医療法人であり、医師による対応が可能な24時間のオンコールとなっており、重篤になった場合やターミナルケアの医療体制チーム編成が可能となっていることと併せて利用者や家族の安心に繋がっています。職員には、感染予防、サービス向上、事故防止、身体拘束、行事委員を担い、月1回の職員会議に進捗状況・報告をしており、職員の意識向上を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員は常日頃から意識してより良い支援ができるように心掛けている。	利用者の日々の業務の中で理念の実践に努めています。職員がケアの振り返ることができるように各フロアに理念等を掲示しています。ホームページ上やパンフレットにも掲載されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事等へは、入居者の希望を確認し、体調に合わせて参加している。また、町内会に参加したり交流に努めたり、買い物や床屋などで地域のお店に出かけ交流している。	町内会や商店とは良好な関係を築いており住民と散歩や買い物等の外出時には挨拶を交わしています。地域の一員として町内会や事業所の行事の相互交流に努めています。町のイベントなどに参加や見物に出かけ利用者の楽しみとなっています。ボランティアによる編み物の指導や行事のお手伝い、畑作りの全般を担って頂き利用者の活動を支えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会や講習会に参加し、職員全体の知識を高め、地域に向けた取り組みは実践できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の活動報告、状況報告、意見、質問を頂き、サービス向上に努めている。また、家族交流会に参加していただきサービスの実践を見ていただいている。	運営推進会議は定期的に利用者家族、民生委員、町職員等の出席を得て開催しています。利用状況や活動状況、ヒヤリハット・事故報告を報告しています。定期的に身体拘束・虐待防止委員会の取り組みを報告しサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見を頂いたり、町の担当者職員よりアドバイスを頂くなどサービスの質の向上に努めている。	利用者に関することや日々の業務について、町役場の担当者と連絡を取り、事業所の空き状況や運営推進会議について相談し出席を頂きながら、協力関係を築いています。ケアカフェに参加し市民勉強会等の情報も共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり、定期的にアンケートを実施しフロア会議内で話し合いの場を設けている。また、施設内研修を実施し、身体拘束の理解に努め日頃のケアに努めている。	身体拘束・虐待防止委員会は、毎月1回行われ職員会議にて現状報告やアンケート内容の報告をしており、現時点の介護の状況や具体的な弊害はどうして起きるのか、何が問題なのかを説明し職員が自ら考え検討を重ねるようにしています。研修は外部研修と内部研修を実施し、日々身体拘束やスピーチロックや暴言等の防止に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、定期的にアンケートを実施しフロア会議内で話し合いの場を設けている。また、施設内研修を実施し、虐待の理解に努め日頃のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、管理者が十分に説明しご家族の同意、理解を得ながら行っている。また、疑問、不明な点などは、その都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置し書面で投稿できるように対応している。また、ご家族にも運営推進会議に参加していただき意見や要望を取り入れている。	年2回の家族交流会は1回は全体での交流があり、利用者家族同士や職員とのコミュニケーションの場として意見や要望などを聞き取っています。また、2回目は利用者と家族の団欒ができるように支援しています。家族が来所時や電話連絡等で要望・意見を聞き解決できる場合はすぐに対応し、出来ないものは会議等で解決に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、フロア会議や全体会議を行い、管理者が参加のもと職員同士で話し合う機会を設け、意見や提案を引き出せるようにしている。	定期的に職員会議やユニット会議等を行い、管理者や主任、リーダー等が、運営に関する職員の意見や要望、提案を聞く機会があり、出された意見については、事業所の運営に活かすよう検討されています。ユニット毎の1年間の目標は職員で話し合い決めており、中期・後期で進捗状況を話し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ就業規則を変更するなど職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を行っている。また、外部研修に参加する機会を設け、参加した職員から内容を他の職員にも伝え、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある事業所と連携を図り研修会や行事などに参加し交流をしている。また、ケアカフェに参加し意見交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、管理者やケアマネジャーと面談し事前に情報を得て安心して入居生活が送れるように本人の希望に添えるように努めている。また、職員間で情報の共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホーム内の見学や説明を行ったり、本人やご家族の要望などを聞き取り、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に情報を収集しアセスメントを行ないケアプランを作成し状況把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる事を把握し一緒に食事作りや掃除を行い暮らしの中で支え合う関係作りにも努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に本人の状態を報告し、必要に応じて、ご家族と相談し協力を得ながら、ご家族との関係作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事や買い物や床屋などに入居者となじみの場所や知人に会える機会を作り支援している。また、知人など地域の方が訪問しやすい環境になるように努めている。	お墓参りやお正月、買い物などの外出・外泊の希望は、家族の協力を得ながら支援に努めており、利用者の希望で個別に職員が引率を行っています。利用以前からの習慣を大切に新聞や馴染みの理容・美容室へは継続して利用できるように支援しています。家族に頻繁に携帯電話で連絡している利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性の把握に努め、必要に応じ職員が間に入り入居者が孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で入居者の思いや希望を確認し、職員間で情報を共有し、入居者の意向に沿った暮らしができるよう努めている。	何気ない会話の中で本人の想いを把握できるように、職員は笑顔で接し話しやすい雰囲気づくりに心がけています。把握困難な利用者や黙ってしまう利用者には本人のメッセージがくみ取れるように注意深く観察し、ひも解く努力を行っています。情報はカンファレンスで共有しケアに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から生活歴などを聞き、1人ずつファイルにまとめており、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった事があれば行動表やフローシート等に記録を残し、個々の過ごし方を尊重できるように職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族の意向を確認しながらチーム単位でモニタリングやアセスメントを行っている。作成した介護計画はフロア会議にて話し合いを行っている。	基本4ヶ月毎にアセスメント、モニタリングを行い本人や家族の意向・要望を汲み取りながら介護計画を作成しています。担当制で毎月のユニット会議で利用者のカンファレンスを行い、課題分析、改善に取り組み現状に即した介護計画になるように見直しています。変更がある場合はその都度作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常生活の過ごし方の様子をケース記録や日誌に記入し、職員間での情報共有し会議等で検討しケア内容の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族から話を聞きながらその時に合ったニーズの把握に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店利用や、買い物に職員と行く事や様々なボランティアの訪問などで楽しみながらご本人のもっている力を引き出せるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的にかかりつけ医の往診を受けている。また、必要に応じ、かかりつけ医と相談し、受診や往診などを行っている。	月2回の往診や24時間オンコールは医療法人で医師対応や指示を受けることができ利用者や家族の安心に繋がっています。また、必要に応じ歯科や皮膚科などの受診や往診が取られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際に看護師も同行して頂き健康状態の把握ができるようにしている。また、急変時、夜間帯なども電話で助言、対応してもらい協働してくれている。入居者、ご家族に安心してもらえるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎日、お見舞いに行き状態を日誌に記録し職員間の情報共有に努め早期退院に向けて情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に本人やご家族に意向を確認の上、必要に応じその都度、話し合いの場を設け支援に取り組んでいる。	利用者・家族の希望により看取り介護を実施しており、本人が最期まで安心して過ごせるよう、医療と家族の協力を得ながら、医療法人が母体でありチームケアで支援しています。重度化及びターミナルケアに関する指針があり、入居時に利用事前指定によりアンケートを実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は研修等を実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、年2回実施しており、関係機関や地域住民と連携を図り、助言、指導を受け対応している。	夜間・日中想定で年2回消防に計画書提出し火災訓練を行っています。この地域では停電を経験しており、その経験に基づき不足分の備蓄を行っています。また、火災以外の避難訓練を予定し、職員の防災対策の向上に努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活歴や性格等を把握しその人に合った声の大きさや言葉遣いなどに配慮し本人の自尊心を傷つけないように心掛けている。	日頃の会話や表情で、利用者の思いや希望の把握に努め、来所された家族に要望等を聞き取りその情報は職員間で共有化を図っています。また、職員は利用者個々の声掛けを行い顔色や表情、その時々の変化を見逃さないように努めできる限り利用者の意向に沿った支援に心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者に希望を聞いたり、質問の仕方を工夫するなどし自己決定してもらえよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や食事席においては、決めさせてもらっているが、その時の本人の心境に配慮し出来る限り、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでいただいたり、馴染みのある床屋があれば行けるよう同行するなどして支援している。身だしなみで不十分なところ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食のメニューは決まっているが希望に応じ変更したり、夕食のメニューは入居者と相談し決めている。また、準備や片付けは可能な限り入居者と一緒に行っている。	イベント用の食事や流しそうめん、外食、出前などバリエーションに富んだ食事提供に努めています。夕食はその日の昼食後に各ユニット毎で利用者の希望を聞き決めています。また、お萩やホットケーキなど利用者と職員で手作りおやつを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量などは記録し把握し、摂取量が少ない時には必要に応じ対応方法や補食の検討等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な入居者の方は必要に応じ起床時、就寝時、毎食後に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄状況を把握し必要に応じ検討し各入居者に合わせた排泄が出来るよう努めている。	日中は利用者の排泄の基本がトイレとなるよう職員は日々個人の排泄パターンに沿い、利用者の人格を尊重しプライバシーを守り、時間、仕草等からの声掛け誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供したり水分量不足にならないよう配慮したり、食物繊維を摂ったり、体操など身体を動かす機会を提供し自然排便をうながしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めているが入居者の希望や状態により日時を変更し対応している。また、体調不良等があれば、状態に合わせ清拭など対応している。	基本週2回の入浴を支援しています。1人で入浴される利用者もあり、職員は安全に配慮した見守りを行っています。入浴時にはゆったりと過ごしていただくように努めています。入浴拒否の場合は、気分転換や日時の変更を行い利用者の気持ちに配慮しています。同性介助の希望があれば行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて食事時間をずらし休息の時間にするなど臨機応変に対応している。また、夜間あまり眠れない方の状態を観察し対応方法を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関してファイルし保管している。また、必要時、内服薬の種類や副作用について、薬剤師や医師などにも相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や嗜好を把握し、日常生活の中で役割を見つけ、ご本人の負担にならないよう、能力にあった作業や好む余暇活動を支援し気分転換などに繋がるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や自宅に行くなど外出の希望があれば、必要に応じご家族の協力を得ながらできるだけ支援している。	紅葉ドライブ等の外出はユニット全体で出かけるようにしています。人力的配置が可能な限り、利用者の希望で個別の買い物やドライブ等の外出に職員が同行し、利用者の気分転換や満足感に繋がるように努めています。冬期間やコロナウイルスの影響で利用者の生活機能の低下を防ぐため、毎日のラジオ体操等を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に説明し理解を得たうえで、本人の希望に応じてお金を所持し、買い物などで本人が自ら使える入居者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じホーム内の公衆電話を使用しご家族などに電話をかけたり、手紙は必要に応じ職員が代筆するなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や時期に合わせた飾り物を入居者と作成したり、季節感を感じて頂けるように努めている。	居間や食堂、廊下などには芸術文化祭に利用者と職員と作った作品を飾り、利用者中心に季節毎の飾りを作ったものを展示し、見た目や話題の提供に努めています。また、温度や湿度については、過ごし易い環境に努めています。柔らかな明るい日差しにつつまれた居間兼食堂は、落ち着いた雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性を配慮し気の合った入居者同士が過ごせるように努めたり、ソファなど家具の配置も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や物を持参したり、写真を飾ったり、居室のレイアウトを工夫し居心地よく過ごしていただけるように努めている。	入り口には暖簾を掛け、家族の写真を飾ったり、馴染の家具やペット、身の回りの品等を持ち込み、利用者は個性のある居室作りをしています。各居室には洗面台やタンス(耐震対応)等が備えつけられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ家具の配置など環境整備を行い、安全に暮らせ、自立した生活ができるよう考慮している。		